

【指定】

種 別		名称・員数	所有者・所在地等	説 明
1	重要文化財 (彫刻)	木造獅子 1 対	(宗) 鴻八幡宮 [倉敷市児島下の町]	<p><b>鎌倉後期から南北朝初期の木造獅子</b></p> <p>阿形・吽形共に前肢片方を前方へ出し、胸を強く前方へ張り出して前肢を踏ん張り蹲踞する。両像共に体軀は細身で全体的に引き締まった印象を受け、鎌倉期の様式を表している。頭頂部に角の表現の痕跡が認められないことから、獅子像 1 対と考えられる。</p> <p>「建武三年丙子 正月廿九日 慶尊」と両像の像底にある銘文が示す内容はやや不明確だが、鎌倉後期から南北朝初期にかけての図像的な表現に忠実であり、保存状態も良く、日本彫刻史上の在銘作品として貴重である。</p>
2	重要文化財 (考古資料)	西山遺跡出土 特殊器台 2 個体	倉敷市教育委員会 [倉敷市真備町箭田]	<p><b>弥生時代の遺跡から出土した特殊器台</b></p> <p>昭和 52(1977)年に発掘調査で出土したもので、2 個体が横倒しでつなぎ合わされ、棺として使用されていた。</p> <p>特殊器台は、弥生時代の吉備地域を特徴付ける点で特に重要な遺物。全体的な残存状況も良好で、編年研究上重要な手掛かりとなる大きさや文様構成等が良好な状態で保たれており、特殊器台の全形を知ることができる数少ない資料として貴重である。</p>
3	史跡	黒宮大塚墳墓群	(宗) 熊野神社 [倉敷市真備町尾崎]	<p><b>弥生時代後期の墳丘墓群</b></p> <p>昭和 52(1977)年に発掘調査が実施され、竪穴式石室や多数の遺物が発見された。平成 31(2019)年に行われた精細な測量調査の結果、隣接する 2 基の墳丘墓で構成される墳墓群であることが明らかになった。</p> <p>いずれも 2 世紀後半頃の築造と考えられ、特に 1 号墓は、ほぼ同時期に築造されたと見られる楯築遺跡(国史跡)に次ぐ規模であり、全国的に見てもかなり大きい。当時の吉備地域の社会を知る上で欠かせない遺跡である。</p>

4	重要無形民俗文化財	やとへびかぐら 矢戸の蛇神楽	へびかぐらじっこういんかい 蛇神楽実行委員会 [新見市哲多町矢戸]	<p><b>江戸時代以前からの祭礼が伝わる行事</b></p> <p>18世紀半ばから、新見市哲多町矢戸地区内にある、宮の峠、只野、町の3集落が交替で当番組を務め、7年ごとに行われている式年大神楽を中心に構成されている祭礼行事。</p> <p>藁蛇の製作、藁蛇に荒神を憑依させる行為、さらには託宣を経て、田畑を駆け巡るような行事も残されており、これらの行事がほぼ全て現在まで伝承されているものは他にはないことから、大変貴重である。</p>
---	-----------	-------------------	---	---

※県指定文化財件数 既指定数 499 件 今回指定 4 件 指定合計数 503 件



1 もくぞうしし 木造獅子 1対〈(宗) 鴻八幡宮所有〉



2 にしやまいせきしゅつどとくしゅきだい 西山遺跡出土特殊器台 2個体〈倉敷市教育委員会所有〉



くろみやおおつかふんぼぐん  
3 黒宮大塚墳墓群 〈(宗) 熊野神社所有〉



やとへびかぐら  
4 矢戸の蛇神楽 〈蛇神楽実行委員会〉